

「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」

校長 小林 大 介



今から約 150 年前に『人間が想像できることは、人間が必ず実現できる』という言葉を残した人がいます。フランスの SF 作家で SF の父と呼ばれたジュール・ヴェルヌです。読んでいる方も多いと思いますが、『十五少年漂流記』を書いた人です。彼の代表作の一つであり、ディズニー映画にもなった『海底二万里』という潜水艦を舞台にした物語があります。この作品が書かれた当時は、潜水艦が存在しておらず、作者の想像力だけで作り上げられたものでした。現在では海洋調査等で潜水艦が使われることは当たり前の事実です。

私が幼少の時に特撮ドラマやアニメーションで見ていたものに、腕時計が通信装置になるものや、一般家庭にテレビ電話があるシーンが記憶に残っています。当時は、電話は黒いダイヤル式のもので、テレビはようやくカラーが一般的になった時代です。腕時計型の通信装置やテレビ電話など、遠い未来の話だと思っていましたが、50 年もたたないうちに携帯電話やスマートフォンが作られ、一人一人が小型のテレビ電話を持ち歩く時代になったのです。

『人間が想像できるものは、人間が必ず実現できる』 大変勇気を与えてくれる言葉であり、未来への希望を膨らませてくれる言葉です。100 年後の未来は、誰でも宇宙旅行ができたり、「どこでもドア」で好きなところに行けたりするような時代になっているかもしれません。

未来を作り上げる想像力を子どもたちに身に付けさせる事も、私たち教師の大切な仕事の一つだと思います。そのためにも、自分自身が想像力を鍛えることが必要だと日々感じています。